

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	水辺等美化活動事業(河川清掃事業)	会計	一般会計	事業No.	325	施策順No.	52-001
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-4-11-1		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課		
施策	52 身近な自然と生活環境の改善			事業期間	開始	22	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	河川及び周辺						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		河川数(井水除く) 一級河川62・準用河川113	175	175	175	175	175	
	意図	市民参加により環境が整備される。(生活環境の維持)						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	河川清掃をする一級河川数/飯田市の一級河川数 (%)	100	100	100	100	100	100	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	事業自体は完了したが、当日以外の河川清掃で排出される土砂についてどうにかしてほしいとの意見があった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	全市民にて河川清掃を実施 <参考>細々目名:環境衛生事業費 身近な環境を自分たちの手で改善する活動の一つとして、全市一斉に河川清掃を実施するよう呼びかける。 実施日・実施内容は地区により異なる場合もあるので、やり方について検討が必要である。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	7月第一日曜日を全市一斉水辺等美化活動日として呼びかけを行った。 草や土砂等の受入ができなくなったため、草については、飯田建設事務所の管理する松川河川敷へ仮置き、桐林クリーンセンターで処分し、土砂は業者により処分した。(捨て場所は千代)	1 清掃された河川数:通年 2 動員人数 3 車の借上台数 4 傷害保険料 5 草処理(業者) 6 土砂処理(業者)	1 175河川 2 約20,000人 3 90台 4 127,200円 5 25,85 ^ト 6 16立米
23年度実施計画	【事業名称の変更】 7月第一日曜日を全市一斉河川清掃実施日として計画する。草・土砂については、飯田建設事務所の管理する松川河川敷へ仮置き、桐林クリーンセンターで処分し、土砂は業者による処分とする。	清掃された河川数:通年 1 動員人数 2 車の借上台数 3 傷害保険料 4 草処理(業者) 5 土砂処理(業者) 6 汚泥処理(業者)	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,957	1,841	3,149		
計(A)		1,957	1,841	3,149		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			1,841			

4 事業に対する市民や議会の意見

清掃によって出た草や竹等の処理方法を考えてもらいたい。地元での処理も限界になってきた。竹木も集めてほしい。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	水や緑が守られ増える	施策の成果指標又はムトス指標	身近な自然が守られていると感じる市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	河川清掃により生活環境が維持された。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	草処理を桐林クリーンセンターに依頼して処理をした。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	各地区に分別の徹底を依頼し、費用の節減に努めた。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	飯田市として呼びかけ結の精神の元、半ボランティアで市民参加いただいているので、ある程度の負担は妥当と考える。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	主体は市民で地域の環境維持であり、行政としてPRや呼びかけを積極的に行った。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	全体的には事業の目的を達成したが、草と土砂の捨て場について、はっきり毎年示せるよう常設も考えていく必要がある。		
	後期に向けた課題			

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------